法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

地場における高校生の職人イメージ

NAKAGAWA, Sakuichi / 中川, 作一 / 亀谷, 純雄 / KAMEGAI, Sumio

(出版者 / Publisher)
法政大学教養部
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学教養部紀要. 社会科学編
(巻 / Volume)
47
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
26
(発行年 / Year)
1983-01
(URL)
https://doi.org/10.15002/00005504

Hosei University Repository

地場における高校生の職人イメージ

中川作一
亀谷純雄

目的と手続

本研究は、「伝統的職人社会の崩壊と再建」という全体のテーマにそって、伝統的な地場産業の現在および、将来についての地元住民の意見、意識を明らかにすることをねらいに実施された調査の報告である。(注)

対象を石川県金沢市ならびに近郊の高校生にとり、イメージ調査という方法でこの課題に接近した。また職人イメージを探る手掛りとして、被験者である高校生の学校生活の印象や、自己像についての特徴もあわせて調査している。

調査法としては、その主旨を説明した後、次のインストラクションによって、被験者の連想をうながす方法をとった。

「これから私のいうことばを聞いて、頭にうかんだ内容をうかぶ順に二〇通りの言い方でつぎつぎに書いてください。誰かほかの人に言うのではなく、自分自身に向って言うようなつもりで自問自答しながら、できるだけ早目にやってください。なお、これは書こう、これはよそうといったような取捨選択はいりません。理屈にこだわらず自然な気持で書いてください。」

Hosei University Repository

この手法は、M・クーン（一九五四）らによって開発されたTST（Twenty Statements Test）とよばれるもので、主に自己像理解のためのテストである。この方法をかりて職人イメージを抽出することにした。

刺激語は、自己像への接近課題も含むため次の通りである。①私とは、②私の仲間とは、③未来の私とは、④職人とは。

以上の刺激語に対しおよそ一五分を目安に、二〇の文章を完成してもらうわけだが、実験者は四系列とも、一系列ごとに刺激語を読み上げ、板書する方法で進める。

次に質問紙にうつり、学校生活の印象についてSD法をつかい五段階等間隔尺度にマークしてもらう。尺度は次の四つの形容詞対を使用。快―不快、強―弱、明―暗、動―静

対象

石川県立普通高校　二年二クラス、八四名

石川県立実業高校　三年一クラス　四〇名

調査時期

一九七九年十二月

高校生のプロフィール――学校生活の印象

図1は、四つの尺度でえられた学校生活についての印象を、簡易採点法によって整理したものである。尺度はすべて1から5までの範囲で、3がニュートラルである。

両校生のプロフィールをみると、四つの尺度とも商業高校のほうが積極的で、普通高校は3の項目に集中し印象

Hosei University Repository

が不明確である。ただ、両校とも平均が中間点より左に現われ、きわだったマイナスの印象は見あたらない。

実業高校生は普通高校生に比べ、学校生活についてとくに「明」「動」の印象をもち、この差は大きい。ついで「快」の印象も両校の性格を分けているようだ。

学校生活に関して「やや強」に傾むく印象の点ではほとんど差が見られないのに実業高校生の場合、その上に快、明、動の印象がかぶさるのは、学業の最終コースにある関係で、就職という未来の具体的共通目標が、否応なしに彼らの能動性をひき出すためであるように思える。その点普通高校生は、当面ひかえている受験という抽象的課題に立ちふさがれて互に孤立しているため、学校生活の意味や、その中での自分の位置が見えにくくなっているのではないか。

もう少し細かく特徴をひろうと、普通高校生は二クラスのサンプルの結果だが、分けてみると、快不快、強弱に違いがみられる。

この二クラスは、理科系、文科系と進学進路によって区別されているのであるが、現実的には理科系クラスのほうが学力ランクがより上位にある。この編成原理のために、文科系クラスにとって学校生活は、より強、より不快な印象として現われてくることになる。

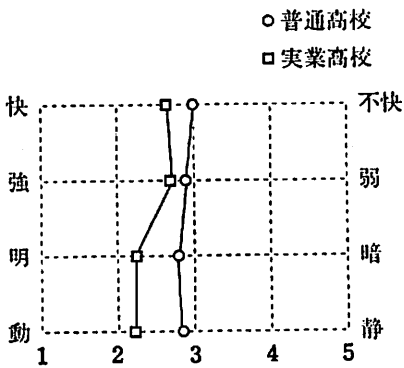

図 1

職人イメージの座標

およそ二三〇〇にのぼる被調査者の個々の記述を読み通し、それらを内容の親縁性に従って分類して、いくつかの項目のもとにおさめていくと、図2のようなシェマがえられる。

「未分化」は、イメージが十分に鮮やかでないものであるが〝職人〟に対する情意的色合いの点で、積極〈＋〉、消極〈－〉の区別と、そ

Hosei University Repository

の不在〈○〉とがあり、自分との心理的距離の面でも、遠近の違いがでている。

「分化」の部分は、イメージの分節化したものだけについて処理を進め、えられた諸項目を「労働」を中心にして構造化したものである。

「労働」は、内包と外延に分かれるが一方、「技・芸」に連なり、それとの相互作用で育てられる「気質（かたぎ）」の領域に接続する。他方、「労働」は、「生活」を保障しているだけでなく、生活の維持は、さらに目的化して信念体系としての「生き方」の領域に連結する。「生き方」と「気質」は、性質上個々の職人の内面生活に関わる領域であるが、現実には、それらを結合の規範とする「職人社会」を作っている。また、「生活」と「技・芸」は、客観的には地場の「経済」活動の文脈の中に含まれていて、それを賦活する要因になっており、この「経済」が、いわば物質的に職人社会の土台を支える関係にある。

「総合」は、職人イメージが一般化し、その中の労働連関を「伝統文化」の継承と創造につなげるところまで深化した水準を示す。

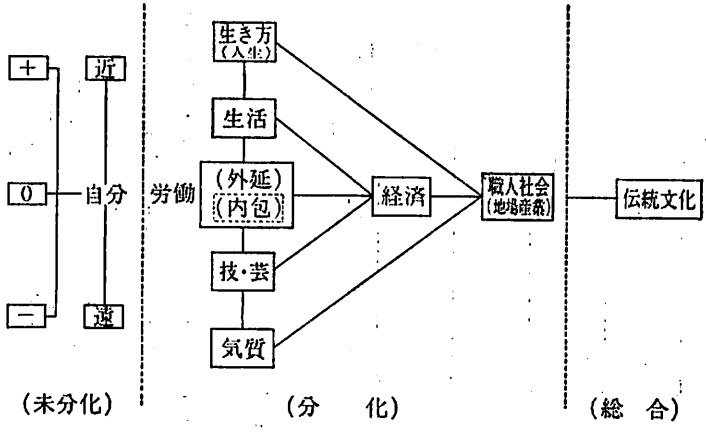

図 2　職人イメージ座標

職人イメージの内容

まず「未分化」のほうからみていこう。「未分化」というのは、被調査者の職人イメージが、十分に分節化しないまま表現される場合の記述を、ひとまとめにしたいわば大分類のカテゴリーである。この上に我われは「分化」、「総合」のカテゴリーを並置した。

Hosei University Repository

しかし、「未分化」に分類された記述を、さらによくみていくと、「分化」あるいは「総合」の水準で展開される諸要素の〃芽〃がすでに胎胚されていてそれらが一応、ある種の構造をとっていることが分かる。その外側から順に報告しよう。

我われの資料は高校生に、念頭をかすめた内容を即座に表現してもらった書き言葉であるから、ひとつひとつは多義的で曖昧なこともあるが、それらの意味の範囲をひとつの全体の中に整序にしてみると、個々の記述がそれぞれ固有な表現価をになうようになる。そこでそれらの記述を、個々の被験者の内的文脈から切りはなし、第2図の座標軸に従って再結合する方法をとることによって、我われは高校生の職人イメージの分節をみい出し、それらの連関を全体的に捉える視点を導きだすことができる。〔以下、記述にある（　）内の数字は出現頻度をあらわす〕

(一) 伝統文化に関わるイメージ

先祖代々から／日本て感じ／金沢に多い／お国じまん／時代劇や古都を連想させる／江戸時代／現代に染っていない／古くからの仕事／ちょっと古いかんじがする／古風な感じ／古風／旧式／古い／昔の人／よくテレビに出られる／名人／玄人／通／本格派／大ぜいの人間に物を見せる

最初は「未分化」の中でも、とくに情意的な色合いの少ないものだけについて整理した。

今の引用は伝統文化のイメージである。けれども、職人は伝統を支える貴重な人達なのだが時代からとり残されていく人達でもある、というふうにイメージがおのずから積極面と消極面に分かれている。

(二) 職人社会に関するイメージ

職人社会は、伝統文化の消極面のイメージと重って、現代社会の〃周辺〃にあって閉じた、老齢化した社会として抽き出されている。

Hosei University Repository

いろいろな場所にある／何かをつくる人／仕事場／日本中いっぱいの職人がいる／ふつうの働いている人とはちがうイメージがある／はなやかではないのでは（会社とくらべて）／部屋にとじこもり、出て来ない人／地味／そぼくなかんじ／町はずれに住んでいる人／あまり目立ない人たちだと思う／大きな重荷を背負ってるような感じ／孤独／静けさ／珍しい／年寄り／お年寄り／たいてい年をとっている／案外年寄りが多い／年をいった人を想い出す／ふるくさい人間／おちこぼれるか？／大成するか？

これらの記述に共通な点は、被調査者が職人社会との間に心理的な距離を感じていることである。

㈢　職人気質に関するイメージ

しかし、金沢の高校生達はいうまでもなく個々の職人を身近かに見る機会が多い。それどころか彼ら自身が、職人の子弟であることもめずらしくない。

うちのお父さん／私のおばさん／私の父である／父／お父さん／家業／親せきにいる（加賀友ぜん）

したがって記述が職人気質や職人労働の領域におよぶと、彼らと職人との心理的距離は急に縮んでくる。

においを持っている／灰色、雨、作業服、道具が連想される／やせた人が多いイメージだけど？／かたぎ／大きな声／体力がある人／病気にならない人／男っぽい／男が多い／男らしい／男くさくて女っ気がない／力強い人を想い出す／ぐん手を想い出す／手がごつごつあれている人／ごつい手をしている人／手があれている人／きれいな服をきていない／自転車屋の油のにおいのする人／汗をかいている人／タオルを想い出す／真剣な顔／めの細い人／目がいつも輝やいている／目が輝やいている人／目でことばがはなせる／涙／汗／大酒飲み／酒のみが多そうたばこをすう人

「大きな声」が響き、ごつごつした手や汗と油にのおいを想い出すが、それに男性的で力強い印象がダブる。そして、「真剣な顔」「目でことばがはなせる」などと、相貌の読みまでが深い。

Hosei University Repository

㈣　職人労働に関するイメージ

その上彼らは、職人労働のきびしさ、技巧、創造性をよく了解している。

まねできない／あこがれだけではなれない／きびしい／だれでもなれるものじゃない／苦労がいるもの／苦労の多い人／苦悩した人簡単にできない／むずかしいものです／むずかしいこと／苦労が多いだろう／疲れないかなあ／疲れるものだ／いそがしいものだ／大変／たいへんだと思う／修行／微妙な動き／どうすれば良くなるかを考える／自分の仕事／自分が将来役に立てる仕事をする

つまり職人への修行は厳しいし、その仕事は苦労が多く、高度の勘を要するけれども、それだけに職人は労働における疎外から自由であることが、彼らにも察知されているといえよう。

㈤　職人の生活に関するイメージ

しかし職人を生活者としてみると、必ずしも肯定的な面ばかりが浮ぶわけではない。「未分化」な記述だから表現価は低いが、

時間がかかる／時間／時計／平凡である／くりかえしをするもの／年月

などは職人の生活をさめた目で見て、その単調さをいとう気持の現われであろう。けれどもこれに対して「特別の職をもった人」だから「お金が高い」という、生活水準の角度からみた評価もある。

㈥　地場産業の経済に関するイメージ

ちょうちんを作っている人がやめてしまった／常に世界の状境（ママ）、まわりの状境（ママ）を知らなければならない

これも表現価は低いが、手工具で仕上げる職人労働の経済面に関する気づかいをにじませている。

Hosei University Repository

(七) 職人の生き方に関するイメージ

これについては、「人生」というのがあった。

次に好意的「未分化」の資料によって以上をおぎなってみよう。

(一) 伝統的文化に関するイメージ

記述は「未分化」だが「好意的」であるから当然、職人イメージのマイナス面は消え、彼らは、ここでは伝統文化をささえる貴重な存在として高い評価をうけるようになる。

日本らしい響きのある言葉である／魂をもつ／徳／すたれてはいけない／なくてはならない人／いなくてはいけない人たち／重視したい／貴重な人／き重な人たち／貴重／重要・貴重／重要／大切（2）／ちかよることができない人／尊敬すべき人／そんけいできる人／尊敬できる／尊敬する人（2）／尊敬される人／尊敬する人でもある／ある程度尊敬する／もうし分のない人／だが最も人間らしい／非凡／感心／りっぱな人たちだと思う／りっぱな人（3）／えらい人（2）／えらい（3）／すばらしい人／ずばらしい／ステキ／スゴイ（3）／あっぱれ／見事じゃ／いいことじゃ

多少敬して遠ざける傾きがないでもないが、それだけに「すたれてはいけない」という小さな呼びは、このさい見おとせない。

(二) 職人社会に関するイメージ

これも数は少ないが、肯定的な色合いをおびてくる。とくに職人社会に対する地場の期待と信頼を反映している点は面白い。

Hosei University Repository

みんなのためにがんばっている／この世の中には絶対大切な人／まわりの人からの信頼が厚い／信頼される人

(2) ／みんなから愛される人／世けんの間でほめられる人／期待をせおう／たのもしい／たいへんだけどがんばってほしい／何らかの形で役立つ／必要なもの

㈢ 職人気質に関するイメージ

これについては「力」あるいは「つよさ」の印象だけでなく、「やさしさ」を感じているところが特徴的である。たくましい／強い人です／強い／いきがよい（勢いがよい）／年をとっても目はいつも若い人／着物なんか着たら似合うんじゃないかなー／静かな心を持っている／心の和む、優しい響きをもつ言葉である／反感を感じない人／おちつける／暖かい／頭がいい／楽しそう

㈣ 職人労働に関するイメージ

ところが一方、職人労働については言及する者がいなくなる。これは、労働の「厳しさ」を知るだけに、その印象が「好意的」にならないためかもしれない。

㈤ 職人の生活に関するイメージ

㈥ 地場産業の経済に関するイメージ

この二つに関係する記述も〝好意的〟「未分化」の中にはなかった。いいかえれば被調査者は、職人に対して好意的態度をとるとき、その労働および生活と経済の現実はみないことにしてしまうのである。

㈦ 職人の生き方に関するイメージ

Hosei University Repository

しかし、ひとつの「生き方」としてふり返ると、職人の「人生」は彼らにとって大変示唆に豊んだものになる。

つねに向上を目指す人／燃える心を内に密めた様子／私は、いいイメージを持っているけれど大変なんでしょうね、実際には／ぼっ頭することのできるもの／一つのことに熱中できる人／何かに熱中している／一生懸命仕事をしてる人／夢を果せて夢のために苦労している／希望がかなう／夢のある人／夢がある（4）／職を大切にする／その仕事を愛する／職業を楽しくやっている人／何となく自然と一体化している感じがする（この現代の中で）／生き生きとしている人／生き生きしている／若い時苦労した人／努力するもの／戦っている人／よく努力した人／努力家／がんばっている／私もそのようにやってみたい／いろいろ教えて頂きたい／やりたいもの／なかなかまねはできない／たいへんだろうなあ／つらいことなんかない／うらやましいそんざい／うらやましいと思うこともある／うらやましい人／うらやましい／よいイメージはあはるけど、実際になりたいと思えない存在／いっけんはなやかであると思う

こうしてみると彼らは、職人の生き方の中に、仕事を愛し職業をつうじた自己実現にたゆまない人生の先達の姿を見ていることが分かる。しかも職人は時に、夢があって生動的であり挫折にくじけなかった「うらやましい人」として描き出される。その見方には、したがって、自己包絡が現われているし、さらに、現代の人間疎外を越えない地平まで予感しているものもある。

(八) 技・芸に関するイメージ

〝好意的〟の資料の中に「技・芸」に関するものが出ていることにも注目すべきだろう。とくに作品の美への共感はそれこそ「貴重」である。

美しさをもとめている人／美になる人／美しい／やはり職人さんのつくったものは違う／旅に出たときなどは職人の作ったものがおみやげにいい

Hosei University Repository

さらに〝非好意的〟「未分化」になると、イメージはいっそう否定的である。

(一) 伝統文化に関するイメージ

言葉のひびきが昔くさくてあまりよくない

(二) 職人気質に関するイメージ

これは文字どおり非好意的である。

いばっている人のイメージが強い／ばかやろうとどなる人／顔の相があまり良くない／低脳の人が多いんじゃないかしら／せこい人間／少し暗い風意気（ママ）／うっとおしい／あまり好きでない／可愛そうな人

いわゆる職人根性の否定面が先にあらわれるので、相貌までがけわしく見えるのであろう。

(四) 職人労働に関するイメージ

見ためは楽しそうだが実はひどいのでは？／ひどい／つらいもの／つらい／しんどい／きびしい／むなしいもの／何年も修行がいるなんてばからしい

(七) 職人の生き方に関するイメージ

めんどくさい職業だと思う／なりたくないもの／しばられている／暗いイメージ

つらり労働からも生き方からも〝根性〟からも、なんら学ぶべきものがないということになる。

こうして「未分化」を概観してみると、高校生達の職人に関するひとつの全体表象が浮んでくる。それは、豊かな経験によって貴重な伝統文化を支える人々であるが故に、周囲からの信望が厚く、しかもその労働のきびしさと

Hosei University Repository

気質の荒々しさのなかに、かえって現代生活における人間回復にも通じる生き方を、若い人達に示すことのできる先達である。けれども、あたかも意味的反転図形をみるように、「夢」があって「美しい」この積極面が背景に後退すると、いとわしい労働の実態や社会・経済的〝活性〟に対する疑問が彼らの意識を占領する。どうやら、この両義性が被調査者の職人イメージを型どっているように思われる。

次に以上の視点に立って「分化」の資料を見直しながら彼らの職人イメージの個々の分節をさぐっていこう。

職人イメージの個々の分節

(一) 労働に関するイメージ

はじめは、「職人とは……?」に対して高校生は具体的にどおいう労働をしている人を思い浮べるか。つまり彼らの職人労働に関するイメージの「外連合」あるいは「外延」は、事実としてどこまで拡がるか、である。

やはり地場の子らしく、まず、加賀友禅。そして九谷焼、箔打ち、輪島塗が次つぎに思いだされる。

浅野川で朝きものを水に流し、ひたしている／加賀友禅をそめる人／加賀友ぜん／とうじ器づくり／とうきをつくっている人／つぼを作る（九谷焼）／箔うち／わじま塗り

これに続いて彫刻、刀剣というのも金沢らしい。

彫刻家／彫刻人／刀を作る

それから「往」と「食」、その他の順だ。とくに「大工さん」は、頻度がたかい。

大工さんて感じ／大工さんが思い浮ぶ／大工さん（4）／大工（3）／かべをぬる／かべぬり／かわら屋／たたみ屋／ガラスをつくっている人／木の職人さんたちが多い／うえき職人とか／植木屋さん／植木屋／坂前さん／いたまえさん／料理人／料理を作る／おかし屋さん／こまを作るのがうまい人／洋服屋／とこやさん／すみをやく

つぎに職人労働に関するイメージ「内の連合」あるいは「内包」に入ると、以上の労働はすべて手仕事として規

Hosei University Repository

定されることになる。

物をつくる／（3）物をつくる（2）／手づくり／手がいる／手作業／手製

さらにイメージが分節化すると、最初「図」になるのはふたたび職人労働の創造性・目的意識性である。

自分自身をその作りだすもので表現できるのですばらしいと思う／自分の個性をだせる仕事を持っている人／自分のおもうように作りあげている／心にゆとりをもって大きな気持ちで仕事する／目標をもって仕事する／心のこもった仕事ができる人／心をこめて物を作る／二度とできないりっぱな物を作る人／一つ一つしんけんに作る／自分自身の技術を必要とする仕事でありけして機械ではできない／サラリーマンよりずっといい仕事をする人／人と人とを大切に仕事をする／仕事と同時にまわりの人とを大切にする／仕事道具を決して粗末にしない／その仕事に明るい人／自分一人ではたらく人

ここでは、労働過程における自己実現は、モノへの手工におもいを込めるだけでなく、「人と人とを大切に」する職人同士の仕事ぶりから生れるものとみられている。この把握はおもしろい。

しかしこの「図」が反転すると、前述のように、次第に職人労働を見る目は乾き、その労働要件からくる「スランプ」や、疲労の問題まで気にし始める。

すこしの失敗もゆるされない／熟練がいる／力がいる／一人前になるには時間がかかる／時間がかかる／息の長い仕事だと思う／根気のいる仕事／にんたいがいる／スランプ時期がある／仕事の時間が定まっていない人／労働時間なんて関係のないしんどいんじゃないですか？／汗を流して働く／とても疲れる仕事をしている人／きたない仕事も多くあるだろう／老いた人ばかりの仕事

それにしても「スランプ時期がある」という所見は、労働する職人の側に立ってみる環境にいなければなりたたない了解であろう。

(二) 技・芸に関するイメージ

Hosei University Repository

これは当然職人労働のイメージの積極面に対応するが、概括するとその内面と外面、つまり、技能の経済価値と作品の芸術性の二つの側面に分かれる。

並の人ではないと思う／とびぬけてうまいことができる人／普通の人にはあまりできないことをする／人のなかなかできないことをする人

これらは表現価が低く、「未分化」に近いが、しかしふり返ると、「なかなかできない」と思ったことは腕、つまり器用さと才能の産物であるということになる。

うでの上手な人／うでがいい／腕がいいものだ／手がまめである／手先の器用な人／手がきようである／手がきよう（2）／器用な人（2）／器用／目がすぐれている／才能のある人だと思う／才能のある人たち／才能のある人間

この中に「目がすぐれている」という表現があるが、職人の「知覚」に注目した技能分析はさえている。

ここから一方は技術の経済価値、一方はその芸術性の領域へ枝分かれしていく。

技術／技術を要する／一種の特技者／ある技術を身につけている人／すぐれた技術を持っている／手に特しゅの技術をもっている人／手に職をもった人のこと／手に職をもっている（3）／人手に職をつけた人／人から信頼されお金をかせげるような技術を持っている人

これは前者であるが、後者は「わざ」の独自性から作品の〝心〟にまで説きおよぶ。

自分のうでに自信を持っている／自分しかない職をする／だれにもまねできないその人にしかできない仕事をする人／芸をもつ人／名人芸みたい／仕事のコツを大事に守る／芸術家／創作力が必要／その仕事を研究する／いつも何かを考えている（特に作品のこと）／いつも作品のことばかり考えてる人／迷ってはいけない（作品に心がでるから）／自分の作品を本当に愛せる人／私達の気持ち（買う方）をとらえるのにとてもむずかしくて苦労してるみたい／伝統として守れる腕の人

とくに職人を、創作者の立場におき、創作者自身が表現に際して、その内界に観賞者の態度をかねることのむづ

Hosei University Repository

かしさを、側にいて見つめる感性などはいつ育てられたのだろうかと思う。

その他、

一〇年二〇年と息の長い人／修行をよくやった人／何年も修行がいるのでたいへんだと思う／その道何十年という熟練者

などは「労働」のイメージと重なる部分だが、

基礎がしっかりしている人／一つのことが他の人よりすぐれてできる人

となると見方はかなり抽象化されていて、後述の「生き方」につながる面をもってくる。

㈢　職人気質に関するイメージ

ここで職人気質に関する「未分化」の資料をおもいだしていただこう。それは「やせた人が多いイメージ」だったり、ある時は、ふしくれだった筋骨型の男の真剣な表情であった。ところが「分化」は、それらの印象を生んだ男たちの内面生活へ喰いこむような洞察を砂す。

「職人気質」は、「職人カタギ」でもあり、「職人キシツ」でもある。この区別に立ってまず「職人カタギ」のほうからみていこう。これはひとつの社会の性格としてみられた職人気質である。それはとりあえず「昔気質」とよばれる。

その職にあった人柄になってゆく／職人かたぎ（2）／職人かたぎの人は好きです（江戸っ子）／昔かたぎである／昔かたぎの人／むかしかたぎ／かたぎの人

さらにその社会的性格としては「きっぷのよさ」がとりあげられる。

心いきがすばらしい人／きっぷがいい／いせいのいい人／がんばりのきく人／気力のある人／質実剛健な人／意志の強い人／意志が強い人／強い人間／強い意志／小さなことにこだわらない／けちじゃない／金めあてに仕事をしない人／探求心、研究心、野心などをもっている／好気心が強い人／作ったものを大事にする人／物にたいする

Hosei University Repository

愛情がふかい／物の大切さがよくわかる

こうしてみると「気風（きっぷ）」のよさとは内容的には、「所有志向」にふりまわされない一貫性と探究心及び作品愛である、という要因分析が成り立ってくる。

つぎは「職人キシツ」であるが、

職人は個性が強いと思う／

という高校生達が、日常的に接触している個々の職人の気質特性について書き出した記述を、それらの親縁性に従って配列した結果、二つの性格類型が浮び上がった。

一、分裂気質

これはクレッチマー以来

1、非社交的、静か、内気、きまじめ、かわり者、

という一般的な特徴を持ち、周囲の接触が不手際なタイプとされているが、我われの資料もこれに対応してつぎのような特徴を掲げている。

人当たりの悪い人／だまってめしを食う人／話しかたのへたな無口な人／無口な人／気むづかしそう／きむずかしい人／静かな人／人みしりをしている／まじめな人間／まじめな人（2）／へんくつな人／変人

また次のような不屈の実行力も、分裂気質に属し、それが周囲の人々に「頑固」という印象をあたえることもよく知られている。

なにごとも最後までやりとおす（途中でやめたりしない）／屈折せず最後までなしとげる／失敗なんかをきにしない／どんなことにもくじけない／ぐちを言わない／不平、不満の言わない人／あっけらかんとしている／自分の意志を曲げないがんこな人／がんこな面がある／普通の人よりがんこな人／がんこな人（5）／がんこ（2）／がんこ者／がんこな人が多いみたい／ごうじょっぱり／負けずぎらい

Hosei University Repository

さらにこの反面の隠されたやさしさにも観察がゆきとどいていて
でも本当はやさしい人／やさしい心をもった人／やさしい人間
という記述にそれが現われている。
分裂気質のもうひとつの特徴は
2、臆病、はにかみ、神経質、敏感、興奮性
である。これらは次のように表現されている。
はずかしがり屋／神経が細かい／きめこまかい／神経質な人／ものにうるさい人
このタイプは繊細であるがゆえに時に激しく興奮する。「ものにうるさい」は、その徴候を示す表現と考えられる。
3、延順、お人よし、無関心、鈍感
これは2、と一見あい反する特徴だがやはり周囲ときれているために決断がつかず、他動的で無感動になるタイプであって、はては毎日ぶらぶらする生活におちいることもある。これに入るものとしては、
どうらくな人／
があった。しかしこの面の指摘が少ないのは当然である。この先には、仕事そのものからの離脱しかのこされていないからだ。
この他分裂気質の内閉性が、社会に対する不満のかたちで現われることがある。我われの資料の中にはひとつ
欲求不満になりやすい／
があった。

二、粘着気質

これはねばっこい性格で、ひとつのことに執着し熱中して変化をもとめない。従って精神テンポはゆっくりしているのだが、ときに爆発的に激怒し興奮する。

Hosei University Repository

1、堅い人間、ものに熱中する、几帳面、秩序を好む

かたい性格／きてんがきかない／ねばり強い／根気のある人だと思う／根気のある人たち／根気のある人（2）／根気強い／こつこつと物事をしんちょうに行なう／こつこつと努力をつみかさねていく人／努力家／自分の仕事に集中しやすい熱心である／集中力のある人／がまん強い人／自分にきびしい人／自分にきびしい／他人に対してもきびしい／人にもきびしくできる人／厳しさを持った人／厳しい人間／きびしい人／りちぎ／しっかりした人／人間ができている／自分ができている／常に勤勉である／働き者／誠実である

つまり彼らは繊細さには欠けるが約束や規則を正直に守るのである。そのかわり、執着があるので

2、まわりくどく、人に対する態度は極めてていねい・いんぎんである

けれども手もとの資料の中にはこの面の記述はみられなかった。職人の対物的な仕事の性質上、対人的なていねいさが外部に現われる機会が少ないためであろうか。

3、興奮すると夢中になり、怒る

これはすぐ分かる。しかしわすれていた頃爆発するので周囲はびっくりして目くばせするのだ。この面は次のように表現されている。

おこらせるとこわい人／おこりんぼうな人／心によゆうのない人／気性があらい／あらっぽい一面がある／荒っぽい

以上の他のこされた記述は

人づきあいが良い／かたぐるしくない人／親切な人／気だてがいい／人情深い／あかるい人

である。これらの「社交的、親切、善良、温和」は性格特性としては循環気質全体に通じるものだが、この種の記述はこれだけであった。

以上のように地場の高校生たちがとっさに書いた言葉の表現価は意外に高い。結局彼らは「職人キシツ」を思い浮べるにあたって、ほとんど仮構しなかったと言えよう。この資料は観察者達がそれほどの至近距離にいることを

Hosei University Repository

示している。同時にこれは分裂気質か粘着気質でなければ職人労働の仕事場につきささっていることができない、という現状をかなり正確に反映しているものとみていいと思う。この二つの職人気質のイメージがや細身型と筋骨型の体格の印象とむすびついていることも偶然ではない。

㈣ 生活に関するイメージ

これは実際には数少ない「成功」からやや無責任な印象を引きだすか、もっと職人生活に接近してそれを直視するかによって違ってくる。

一つでもよい商品ができるとドバッとお金のあたる人／金が一度に多い／金がかせげる／金もうけをしようと思ったらできる

これはさしずめ前者である。しかしよくみると職人とは、

自分で何かをしてお金を得る人／

のことであり、実はつつましく

お金を大切にしている

こともあきらかになる。いいかえれば彼らは、

職でたべていける人／

に他ならないのである。ところがここまで接近してみると、その「職」が近代的な意味での職業ではないことが問題になる。

普通のサラリーマンとは違って職を持つ／退職がないからいい／定年のない人／定年がない／停年がない／サラリーマンとは一味違う／サラリーマンではない／公務員ではない

従って〝定年退職〟はない。けれどもやがてこの認識から〝年功序列〟の気さを予定できない職人生活に対する敬遠の気分が立ち表われてくる。

Hosei University Repository

給料日が定まっていない人／収入が安定していない／生活は安定しているのだろうか／社会からの保障少ない／社会保険がない／ボーナスのない人／ボーナスがない／仕事をやめても恩給のあたらない人／慰安旅行がない

こうして不足を数えあげる構えが先にたつと、仕事に打込む職人の姿がいつか仕事に追いまくられた人のそれに見えてくる。

かっこなんかどうでもよく仕事にうちこんでいる／自分で選んだ道でもいつか止めたくなる時期がきて、その時は止めることが許されない／職にしばりつけられそれなしでは生きていけない人／まじめに仕事をしなくては生きていけない人／なかなか商品作れなかったら生活がひどそー／お正月も盆もない人／自分の気持を押えて行動しなければならない人／他の人との競争がきびしい

さらにマイホームのイメージまでが動揺してくる。

家庭を大切にする人／家計の経済状態を考えない人／家族でさえはいれない一つの別の世界を茶の間にただよわせる人

傍観のかぎりではこの世界も了解できるが、とてもそういう「脱俗」の世界に自分をかけることはできないと、今日の高校生は思うのであろう。

(五) 生き方に関するイメージ

しかし我われの被調査者は、ここへきて自分自身の生活設計に当面している実業高校生である。したがって彼らは自分をかけるかけないは別として手に職をもって生きる職人生活の「自立」に対してはすすんで評価をおしまない気持になっている。その観点から見直すと職人の生き方は、すてがたい魅力を持ってくるし、しかも彼らはその魅力について、〝無気力〟な高校生にはおもいもよらないような分析をすでにすませているらしい。

頼のもしい職業についている人／私たちのこれから目ざす生き方／力いっぱい生きていると思う／人生経験が豊富な人／根性がいる／会社の歯車ではない人／会社ならその会社のためにつくす／自分で生きている人（2）／自

Hosei University Repository

分一人でも生活できる／自立できる／自立している人／自分の選んだ道／自分の道を進んでいる人／自分の道を自分で切り開いていく

そして彼らは職人の「自立」が、自己選択の結果であることに青年らしい敬意を示す。

職を持った人／手に職をもっているからいいと思う／自分も将来職を持ちたい／手に職をもつということはよいことだ／職を手につけてこる面はいいことだと思う／手に職を持っているので生きるのにすごく役に立つと思う／何にも頼らず自分の腕一つで生きていけるえらい人だと思う／職人になろうと決めたときは大きな決心がいったろうなあ

彼らは依存しないで生きる決意のなみなみでないことがわかるだけに、その苦節をぬけた職人達の今日の「生きがい」や「誇り」に対してすなおな理解をしめそうとする。

きっと自分の職に生がいを感じているだろう／自分の仕事に対し生きがいをみつけている人／職業に生きがいを持っている人／仕事に生きがいを持っている／自分の生きがいであると思っている人／生きがいをもっている人／生きがいがある／自分の仕事をみがきそして愛しほこりにして生きている人／自分の仕事を誇れる人／自分の仕事に誇りを持っている人（2）／自分の職業を誇りに思っている人／仕事に誇りを持てる人／自分の仕事にプライドを持つ／自分の職業を名誉として一生けんめいがんばる／自信にあふれ自分の職にほこりを感じている人／自分の職業に自信をもてる人／しっかりした自分の信念をもっている

しかも彼らはこの「自信」が「その道ひとすじ」のたまものであり、「その道ひとすじ」とはたえざる決断に他ならないことを見のがしていない。

その道一筋のキャリアが大きな自信となる／仕事一筋の誠実な人／その道一筋に生きる／一本すじが通っている／死ぬまでつの仕事をやりとおす人／一生仕事を大切にする／あれもこれも手をつけないで一つのことに集中する／自分のすべてをかける／仕事に命をかける、そうまではいかなくても仕事にもえる人／最後まで仕事に情熱をかたむけつづけていく人／自分の力を最大限に発揮し、いつまでも限りなく力をだしつづける／一生その仕事に自分

Hosei University Repository

を打ち込んでいけるなんてすばらしいことだと思う／きびしい世界に耐えてきた人／つらいことをのりこえてきた人／何かを克服できた人／思ったことをやりとおす／自分で自分をためせる人／自分から困難にむかっていこうとする人／本当の職人になるためにがんばっている人／たいてい苦労してきた人が多い

しかしあたかも誇張しすぎを気にするかのように、彼らはまた職人の「自己投企」をもっと日常的な心の働きに置きかえるほど柔軟な発想の持ち主でもある。

好きな道を歩いている人／自分の好きなことをやって生活しているのでいいと思う／仕事が三度の食事よりも好きな人／常に新しいものを追求し努力することができる／失敗や成功のくり返しの中で何かを見つけることができた人／常に何かをつかみとろうとしている／何かを学んでいる

こうして職人の人生は発見の喜びをもとめて好きな道をあるく生活の持続であり、「意」の主軸が「情」と「知」との調和にられた生き方であるという一つの定式があたえられることになる。

したがってそれは、

人間のひとつの生き方である／

が、なによりも

長い時間の中でゆっくり生まれている才能との勝負／

である。またそれだからこそ職人は個性と「感覚」を生かすだけでなく、経済法則をのりこえてそれらを公共化できるのだと言う。

自分の特技をふるにいかす人／自分のオリジナルティを表現できる人／自分の能力、技術を損得に関係なく発揮できる人／世間、大衆、社会を相手に自分の感覚をためす（共通性をためす）

そう考えてみると職人は「自分の世界」の主人公である。ここで高校生達はその生き方を夢とか愛とか希望のイメージで色どってもいいような気持になるのだ。

人にできない仕事をもっている人／普通人のできないようなものをやる／自分の世界を持っている人／世間のふ

Hosei University Repository

んい気とは全くちがう別の世界の中に自分の人生をみつけた人／家族や知人よりも仕事を選ぶ人／意義ある一生をおくれるのでは／自分の仕事の香りをもっている人／じみだけどそのじみな中に何かを秘めている／じみな存在である／その仕事の中で夢、希望をもつ／夢のある仕事のできる人／変化のある毎日をおくれ楽しいだろう／本当にその仕事を愛せる人／一日一日をむだなくくらしている／毎日を大切にしている人／時間を大切にしている人／根の優しいすてきな考え方をする人／年をとっても希望がある人

そして職人の生き方を否定的に描く記述は次の三つにすぎなかった。

はたらくことのみが生きがい／仕事以外何もできない不器用な人／未来の事を考えられない人（現在が良ければそれで良い）

(六) 地場産業の経済に関するイメージ

職人の「生き方」からは多くを学んだ彼らも、職人の技術労働と生活を結ぶ地場産業の将来については、どうやら暗い見通ししか持っていない。

手工業である／手工業／零細／少い作業員／このごろは機械が発達してあまり必要ではなくなってきている

(七) 職人社会に関するイメージ

従来、職人社会は職人気質と職人の生き方とをひとつの「生活型」として統合し、再生産する機能をはたしていたが経済的土台の変化につれて、この機能はもちろん社会集団としての構造そのものが維持できなくなっている。今日では後継者不在の危機は、誰の目にもあきらかである。

最近では少ない／現在あまりいない／人が少ない／数少ない／少ない／職人が減っている／現代では人数が減ってきている／人口減少の傾向にあるもの／若い人が少ない／若い人があまりいない／なりてがすくい／なる人は少ない／若い人はやりたがらない／最近ではすすんでなりたいという人がいるだろうか／職人が少なくなっている現

Hosei University Repository

状の中にいてそれを直視している可愛そうな人

そしてからくも仲間入りするのは「あととり」だけである。

家を継ぐ人がよくなる／親の後継ぎ／あととり、あとつぎ

したがって職人社会のイメージは、ローカル色が強く現代的ではない。

地方にたくさんいて都会にはあまりいない／その地方地方独特である／地方によっていろんな人がいる／現代ではあまり重要視されていない／現代社会から考えると最も古くさく不安定な仕事をしている人

しかしまた社会が、未来のために保存されるべき伝統文化の母体と見られていることもまちがいはない。

だんだん少なくなってきているが、やっぱりいなかったら困る／これからの生活にはいなくてはならない人／未来ではたいへん重要視されるであろう／将来は年金とかたくさんあげたらいい／希少価値／仕事の発展につくす人

実際、職人は

たくさんの人を指導できる能力を持っている人／

である。その人達が現実に見はなされているのは、経済的土台の面からいってやむをえないのだが

競い（職人同士のライバル感）／

次の記述はかりにその事情が改造されたとしても、職人社会の前近代性だけはなんとかしももらわなければ、職人がこれからさき現代を生きのびることはできないだろう、と言っているように思われる。

親方／頭（かしら）／弟子／でし入り／親方と弟子／年期がいる／自分より親方に頭を下げていなければいけない苦しい立場

ここで「分化」の記述全体を、「職人社会」を核にして再構成してみよう。

はじめの労働過程をおもい浮べ、そこからイメージをたぐっていくと、職人は意志さえつらぬけば自己表現や創造の機会にめぐまれた人生を築ける下のように見えたのだが、彼らの共同体である「職人社会」に視点をおいて見

Hosei University Repository

直すと、この〝近代性〟は溶暗し、自己実現の機会をあたえられていたのは、すべての職人ではなく、実際には親方と呼ばれる限られた部分にすぎなかったという現実――前近代の歴史像がよみがえってくる。被調査者の個々の記述は、この二重映しの職人像のいずれかの断面にふれていたのであった。

職人イメージの総合

しかし彼らは職人社会の崩壊を坐視するにしのびない。それは永い間生き神けた日本の伝統文化の崩壊を意味するからだ、というのである。

伝統（2）／伝統的／伝統工芸（2）／伝統的こうげい／伝統工芸に携わる人／伝統の香りがする人

このようにまず「伝統」ないし「伝統工芸」が表象されるのだが、しかしその表象は彼らの場合具体的に「職人さんの手」と結びついている。

日本の古いものの多くは職人さんの手によって長く伝えられてきた／古い伝統を受けつづけていく人／昔からの仕事をうけついでいる人／伝統をついでいる人／いままでの歴史を持つ人／伝統をもつ／昔からつたわる／うけつがれる／何代も続く／伝統を伝える人／昔からのものをつたえる／伝統を伝えてくれる／伝統をあとの世にも伝えていくこと／過去をうけついで将来にその物をのこす人／これからもかわることがない／引き継がれていってほしい／つねに新しい何かを追求している／新しいものや古いものを作り上げていく人

ここには職人さんの手は、伝統文化をうけつぐだけでなく再創造する手であるという認識があるが、この把握もけっして抽象的ではない。それは彼らが、職人はこの土地の歴史を生き抜いた文化の継承者であると思っているからだ。

土着的／郷土文化の継承者／その地域の昔を教えてくれる／その土地の情緒を受け入れている

また彼らの考える伝統工芸は、この土地の香を伝える文化であると同時に（しいて言えば、であるがゆえに）日本人の共有財産なのである。

Hosei University Repository

日本人ならでは作られない／日本をもっとも愛する人／日本の文化を築いた人／日本の文化を支える人／日本の伝統、文化を守る大切な人／日本の伝統を守る人／日本の伝統を育てていく人／日本の伝統を誇れる人

従って「職人さん」は日本の文化を守り、伝統を育てる大切な人材だいとう文脈から「人間国宝」と規定されることになる。

人間国宝（2）／国宝になれる人／人間国宝になる人もいる職業／人間国宝のような重要人物もいる／社会に貢献している人／社会にって大切な人

しかし彼らは最後に後継者不在をおもいだす。たしかに後継者に不自由しなければ、わざわざ「国宝」に指定する必要もなかったのかも知れない。彼らはこの点について地場の高校生らしい問題提起をつけ加える。

いくら大切だといっても結局近い将来なくなると思う／伝統職人はへりつつある／どうにかしてホゴしたいとは思う／だんだん少なくなってきている貴重な創造人／しだいに失われつつある伝統を守る人／これからもその伝統を後世に伝えていくという重大な仕事を背負っている

私たちはこの若い世代の危倶と期待を叩きずてにすることはできない。

（注）一九七八、九年度文部省科学研究助成金を研究費の一部として実施された調査研究である。「伝統的職人社会の崩壊と再建」は、本研究を進めるプロジュクト・チームが接近した主テーマである。